

おもてなしマップは、ARを利用したデジタル情報としても公開中です。スマートフォン、タブレットなどで楽しめます。

## ARとは

スマートフォンカメラに表示される現実世界に重ねあわせて文字、写真、動画などの情報を映し出す技術のことです。トリエンナーレARとしては[イベント会場][みなとみらい博物館][みなとみらい歴史]の3つのチャンネルが用意されています。



## AR体験方法

### STEP 1

以下のQRコードからjunaioのダウンロードページに飛びアプリをダウンロードします。



iPhone



Android

<http://www.junaio.com/download/>

### STEP 2

ダウンロード終了後、スマートフォンのブラウザから以下のサイトにアクセスしてください。



<http://ueno-lab.net/yokotoriAR/>

### STEP 3

上記サイトのARチャンネルリストのいずれかをタップすると各ARチャンネルが起動します。



**6 横浜仏国役館之全図** 現在地: 弁天通6丁目 / 年代: 明治5年(1872) / 作者名: 歌川国輝  
慶応元年(1865)に横浜弁天社の付近に建設されたフランス公使館で、道の向こうからは横浜と神奈川・宮ノ河岸を結んでいた渡し舟が写っていました。フランス公使館といながら、旗はイタリアの国旗が描かれています。横浜絵では国旗の間違いがよくあるといえます。



**7 横浜本町一丁目角三井店ノ前ヨリ**  
東海道生麦ヲ遠景并神奈川洲崎明神ヨリ此本町吉丁目迄渡船有  
現在地: 中区本町4丁目 / 年代: 万延元年(1860) / 作者名: 五雲亭貞秀  
江戸幕府は、横浜で外国との貿易を始めるにあたり、江戸の有力商人に出店を命じました。その代表格は三井で、現在の本町通りと馬車道とが交差する、ローソンが所在する角に店舗をかまえました。当時は、本町や弁天通りなどの日本人居住区にある通りは、一丁目〜四丁目が見るとは逆の順番でふられていました。大八車に乗せた荷物が行き交い、カニで遊ぶ子どもたちや旅人、頭の上に蕎麦をのせて運ぶ男、店舗の内部など、開港場横浜の繁盛を描いた一枚です。



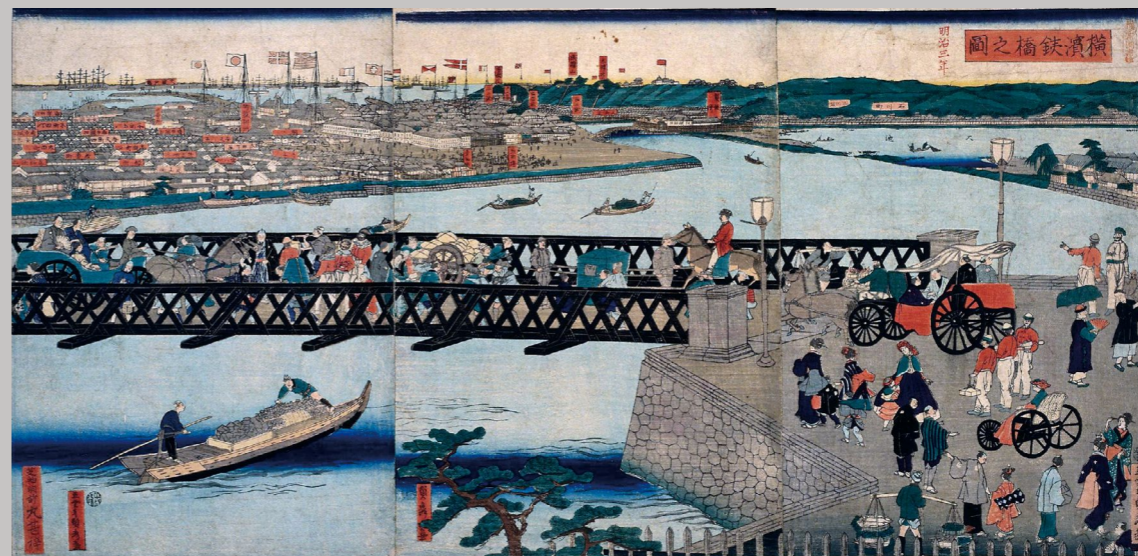
**8 神名川横浜新開港図**  
現在地: 中区本町4丁目 / 年代: 万延元年(1860) / 作者名: 五雲亭貞秀  
当時横浜のメインストリート本町通り、「横浜本町一丁目角三井店ノ前ヨリ」の図の描く方向から90度右に向きを変えて、現在の4丁目辺りから山手の方を望む構図で描いています。その町並みは、遠近法を用いて画面に奥行きと立体感を与えています。手前左の建物は三井呉服店の出店で、両替商として幕府とのつながりもあり、横浜の金融を一手に握っていました。



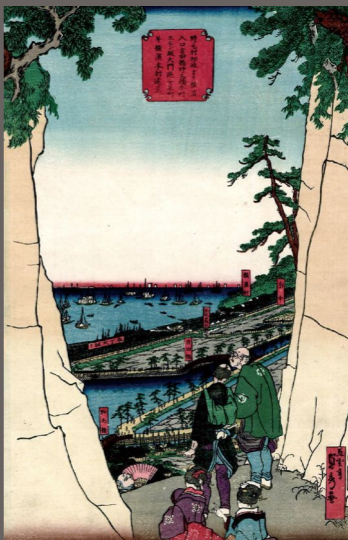
**2 横浜野毛伊勢山從海岸鉄道蒸気車ノ図**  
現在地: 西区宮崎町64 / 年代: 明治7年(1874) / 作者名: 三代歌川広重  
花見の季節、大勢の参拝客で賑わう伊勢山の様子を描いています。参拝客には西洋人と中国と思われる人々もみられます。図の右奥には現在の桜木町駅、当時の横浜駅がみえます。当社は元々戸部村海岸伊勢の森の山上にあったものを明治3年(1870)年4月に現在地の野毛山に遷座しました。



**3 横浜鉄道館蒸気車往返之図** 現在地: 桜木町駅(旧横浜駅) / 年代: 明治6年(1873) / 作者名: 三代歌川広重  
明治5年(1872年)5月に日本で初めての鉄道が品川と横浜の間で開業し、9月には新橋と横浜の間で開通しました。桜木町駅の関内寄りに「鉄道発祥の地」の記念碑があります。現在の横浜駅が大正4年(1915年)に開業する前の43年間は桜木町駅が横浜駅でした。アメリカ人のR.P.プリンスが設計した駅舎は新橋駅と同じ形をしており、機関車・客車・貨車などは全てイギリスから輸入されました。



**4 横浜鉄橋之図** 現在地: 吉田橋(中区伊勢佐木町入口) / 年代: 明治3年(1870) / 作者名: 五雲亭貞秀  
それまで木製の橋であった吉田橋は明治2年燈台技師プラントンの設計によって鉄の橋に代わりました。図を見ると洋服姿の外国人とまぢょんまけ頭の日本人、乗合馬車など当時の風俗も描かれています。画面右手が伊勢佐木町方面、橋を渡って左手、海に向かう道が馬車道です。この橋お通称「カネの橋」として愛されました。その後一度は消滅し、川もまた自動車道路になりましたが、現在この作品などを参考に復元され再び人々に親しまれています。



**1 野毛村切通シヨリ横浜入口吉野野毛橋本町エモン坂大門遊女屋町并横浜本村遠景**  
現在地: 中区野毛3丁目付近 / 年代: 万延元年(1860) / 作者名: 五雲亭貞秀  
安政6年(1859)3月、横浜開港場の建設のため突貫工事が開始されました。まず東海道と横浜を陸路でつなぐため野毛山を削って横浜道が建設されました。図はその切通しの所から横浜見物にやってきた人達が新しく出来た横浜を見て驚いている場面です。眼下には、まだ多くの沼地が見えます。

ヨコハマ  
トリエンナーレ  
2014

# 忘却

The Map of Oblivion

Yokohama Triennale Supporter "Hama-Treats!"  
OMOTENASHI Project

## おもてなしマップ「忘却」

幕末から明治のはじめに開港当時の街の姿を生きたと描いた『横浜絵』。「忘却」の彼方となったかつての風景に思いを馳せながら、MAPを片手に現代の横浜の街を歩いてみませんか?

「おもてなしプロジェクト」とは 横浜トリエンナーレサポーター「ハマトリーツ」が集めたおすすめ情報をもとに「おもてなしマップ」をつくり、ヨコハマトリエンナーレ2014来場者やみなとみらい21地区に遊びにきた方々に横浜の魅力をお届けするものです。新しいまち、みなとみらい21から歴史ある関内・関外地区まで、ヨコトリサポーターが作ったおもてなしマップを手にまち歩きを楽しもう!



横浜トリエンナーレサポーター  
Hama-Treats!  
ハマトリーツ!

■企画・編集: 横浜トリエンナーレサポーター「ハマトリーツ」!「おもてなしプロジェクト」メンバー ■紙面デザイン: 山田崇之 ■協力: 東京都市大学メディア情報学部社会メディア学科 上野直樹 研究室 ■発行日: 2014年9月15日 ■発行元: 横浜トリエンナーレサポーター おもてなしプロジェクト / 横浜トリエンナーレサポーター事務局 ■助成: 一般社団法人横浜みなとみらい21 平成26年度エリアマネジメント活動助成事業 ■お問い合わせ: 横浜トリエンナーレサポーター事務局(横浜市中区日ノ出町2-158 黄金町エリアマネジメントセンター内) | TEL 045-325-8654 |

<http://www.yokotorisup.com>



9 横浜交易西洋人荷物運送之図  
現在地:横浜港沖/年代:文久元年(1861)/作者名:五雲亭貞秀  
横長の画面に交易で賑わう横浜港の様子を描いています。そこにはイギリス、アメリカ、フランス、オランダなどの外国船が停泊し活発な荷物のやり取りが行われています。実際にはこれほどの繁栄ぶりではなかったでしょうが、江戸の人々に異国との取引の様子を生き生きと伝えたいという貞秀の意志が伝わってきます。



11 横浜波止場ヨリ海岸通異人館之真図  
現在地:象の鼻パーク/年代:明治初期/作者名:三代歌川広重  
「横浜波止場」とは慶応3年(1867)に建設された石積みで、それは象の鼻のように湾曲した形状でした。画の右上は、棧橋の東側(現在の山下町)の風景で、海岸通と外国人居留地の商館が描かれ、さらに背景の高台に山手の居留地の建物が見えます。海岸通から海に突き出る小さな棧橋は「フランス波止場」です。手前の波止場を日本人や外国人が散策し、港内の外国船を見物しています。開港150周年の平成21年に復元されました。



10 横浜海岸通之図  
現在地:象の鼻沖(中区新港1丁目付近から望む)/年代:明治3年(1870)/作者名:三代歌川広重  
活発な交易の作業が行われている横浜の港の情景を描いています。この頃は棧橋が完備されておらず、船舶は沖に停泊しており、はしけによる荷役が行われていた様子が描かれています。荷揚場うしろの三つの塔を持つ建物は英国領事館(現在の横浜開港資料館)で、日の丸が見える建物は外交と税関の事務を取り扱う運上所(現在の県庁のあたり)です。



13 横浜亜三番商館繁栄之図  
現在地:中区山下町22/年代:明治4年(1871)/作者名:三代歌川広重  
表題から、手前に描かれている建物は、アメリカの3番目に建てられた商館であることがわかります。寄棟造り2階建外壁石張り、四隅にキーストーンを配した本格的な西洋建築です。左奥にイギリス領事館が見えているところから、この図が正確に描かれているとすると、当時の居留地22番あたりに該当します。



12 横浜鈍宅之図  
現在地:象の鼻棧橋付近/年代:文久元年(1861)/作者名:五雲亭貞秀  
安政6年(1859)に開港した横浜の外国人居留地近くの東波止場(イギリス波止場)付近を行進する楽隊風景です。色とりどりの服装で行進する異人の掲げる旗は、仏、蘭、米、英、露の5カ国です。鈍宅とはオランダ語のZondag(日曜日)のことで、休日を楽しむ異人達を描いています。長崎版画「紅毛人、道中ハヤシ方行列之図」を原拠としています。

【解説出典】  
・ 神奈川県立歴史博物館 デジタルミュージアム  
・ 神奈川県立図書館 デジタルアーカイブ  
・ 横浜開港150周年横浜浮世絵にみる横浜開港と文明開化 2008 財団法人そごう美術館  
・ 横浜開港資料館 平成19年度第1回企画展示 開港150プレリウド4「横浜浮世絵-よみがえる幕末・明治の町づくり」  
・ 日本通運株式会社 環境・社会貢献部 CSR 報告書 2008  
・ 桜木町駅前パブリックアート説明文



15 横浜高台英役館之図  
現在地:中区山手町120/年代:明治2年(1869)以前/作者名:二代歌川広重  
横浜の山手はそれまでの居留地が手狭になったため、慶応3年に新たな居留地として設けられました。この図の右手の建物がこの年に山手120番に建てられた英国公使館で、木造2階建てと空ぶ給所 五雲亭貞秀「平成九年十一月同館発行より(図7.9)



14 横浜商館天主堂之図  
現在地:中区山下町80/年代:明治3年(1870)/作者名:三代歌川広重  
図は日本で最初に外国人への布教が認められた聖心教会を描いています。この教会は文久元年(1861)にジェラルド神父とムクウ神父により居留地80番に建てられました。建物自体は中央に鐘楼を持つ外壁石張りの小さな造りであったことが分かります。現在、キリスト像と来歴を示す碑は転載して、みなとみらい線元町中華街駅3番出口前に建てています。



この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を使用した。(承認番号 平26情使\_第202-GISMAP33110号)